

平成 20 年度

第3回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

社団法人青少年育成国民会議

社団法人中央青少年団体連絡協議会

財団法人日本レクリエーション協会

社団法人日本青年奉仕協会

社団法人日本キャンプ協会

# 受賞者一覧

(敬称略・順不同)

## 文部科学大臣賞

- 学校法人篠ノ井学園長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)

## 優秀賞

【小学生の部】 該当なし

【中学生の部】 しんぐう 新宮町立新宮中学校 あいのしま 相島分校  
相島少年消防クラブ(福岡県)

2008年度 こせだ 屋久島町立小瀬田中学校2年生  
「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)

【高校生の部】 さらしな 更級農業高等学校 農業クラブ  
農業応援団「ねこの手隊」(長野県)

【一般の部】 八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)

## 特別賞

- さんこう 尾道市立三幸小学校(広島県)
- 鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)
- 富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県)
- 富貴中おやじの会(愛知県)
- 高知市朝倉里山を造る会(高知県)

SYDIは、文部科学省所管の社会教育団体です。青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立されました。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて103年、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

# 文部科学大臣賞

## ■ 学校法人篠ノ井学園長野俊英高等学校 郷土研究班 (長野県).....

### 郷土研究からの地域貢献活動

長野俊英高等学校郷土研究班は、第2次世界大戦末期に本土決戦を叫ぶ軍部によって構築されその後忘れ去られようとしていた大本営予定松代地下壕の調査を、1985年に開始した。そのきっかけは修学旅行で沖縄のガラビガマを見学したこと。そこで受けた強烈な体験から地元にある戦争の傷跡に目を向けた。

地下壕の調査とともに、研究班は象山壕の一般公開を市に嘆願し、実現したことから、象山壕見学者の案内(説明)に取り組み、昨年1年間で21回2500人近くを案内、交流を行った。さらに高校生出前講座と銘打って、近隣の小・中学校の総合学習等の機会に学校や地下壕で発表・案内を実施し、好評を得ている。

地下壕の見学者は、1990年から現在まで、国内はもとより世界各地から190万人近くにのぼる。長野市に合併されて発展が鈍った松代地域であったが、地下壕の見学者が飛躍的に増えたことで、生徒たちの活動が地域活性化の一助を果たしていると自負している。観光客増加に伴ってゴミの問題が発生した為、周辺のゴミ清掃ボランティアも行っている。

また、調査研究活動として、お年寄りから当時の事の聞き取り調査をし、140人以上の話をまとめた記録集は32冊となる。これだけの証言を高校生が集めたことに高い評価がされている。集めた遺物も膨大な量となった為、資料展示施設『れきみちの家』を昨年5月にオープンし、生徒は交替で説明・交流を行っている。

さらに、大本営グッズを考案、制作(資料内蔵ボールペン、門鑑レプリカ、手ぬぐい等)し、地域農家が出品する農産物と一緒に、ふれあいどころ“およりなして”をオープンさせ共働で販売している。

郷土研究から端を発し、壕の保存・公開を実現。資料館とふれあいどころをオープンさせ、地域貢献や草の根の国際交流に発展した成果は大きい。今後も地域発展を担う若者の育成に取り組むとともに、壕を国指定史跡として認定してもらうよう活動を続けていく。



<地下壕案内> ↑ (長野市立西部中学校)



<丸護車(天皇陛下の松代避難用)の実物大図を東大生に説明>

→  
(日本イスラエル  
パレスチナ学生  
会議)



<班員によるゴミ清掃>

# 優 秀 賞

## 【中学生の部】 新宮町立新宮中学校相島分校

### 相島少年消防クラブ (福岡県)

#### 地域における消防活動

相島は、玄界灘に浮かぶ周囲約5キロの島で、現在370人が暮らし、漁業を生活の糧としている。少年消防クラブの始まりは、明治3年に起こった火事災害にさかのぼる。男手が漁に出掛けた屋間に火事があったため、残った老人や子供たちは何もできず8割の家屋が焼失した。この災害は長く島で語り継がれ、戦後の昭和23年に中学校生徒会が奉仕活動の一端として、島の防災のために夜回り活動を始めた。かつては100名を超えていた生徒数も、現在は5名となったが、夜回りは続いている。生徒たちは、週に4回、夜9時から、島の北・中・南の3地区を、拍子木を鳴らしながら「火の用心」と呼びかけ、およそ1時間をかけて巡回している。島の防災を願い、伝統を守り、中学校に入学したら当然行う事として根気強く活動を続けている。

大人たちが漁で不在であっても、初期消火ができるように消防署の指導を年に5回ほど受け、定期的にポンプの操作方法の訓練も行っている。生徒たちは3年間のクラブ活動で島の防災の重要な担い手となる。平成16年の福岡西方沖地震の際には、地震直後に老人だけで暮らす世帯を手分けして訪ね、声をかけ、被害がないか確認する等の活動も行った。毎年11月には「火の用心」のステッカーを自作し、一軒一軒に配布している。島には一人暮らしのお年寄りが多く、生徒たちが防災ステッカーを届けてくれるのを楽しみに待っている人も多い。この時のねぎらいの言葉で生徒たちの日々の苦労が報われている。

今年の4月には新入生1名が加わり6名となる。60年目を迎えた島を守る少年消防クラブ活動は、分校の生徒たちに脈々と引き継がれている。



< 「火の用心」 ステッカー配布 >



↑ < 消防署の指導で  
ポンプ操作訓練 >



< 週4回行う夜回り >

# 【中学生の部】 2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生 「笑顔」プロジェクト（鹿児島県）

## 貧困と共に生きる子供たちへの支援活動

小瀬田中学校2年生(男子4名、女子1名)は、1年生の時に道徳の授業で金を掘って生活するエチオピアの子供やゴミ山で生活するフィリピンの子供について学習し、子供たちが「学校へ行きたい」と言っている事に衝撃を受けた。一方、自分たちは毎日「笑顔」で学校生活を送っている。多くの人たちを「笑顔」にしたい、そんな思いを持ち2年生に進級した。その年の5月、SYDの出前講座が実施され、生徒たちはさらにたくさんの刺激を受け、「私たちにできることは何だろう」と考え話し合った。その結果、世界遺産である「屋久島」の力で募金や物品の販売をする事で、多くの人たちに「学校に行けない子供たちがいること」を伝え、SYDの学資支援プログラムに参加する目標をたて、「笑顔」プロジェクトが誕生した。

「笑顔」プロジェクトの目標を達成するために会社を設立し、各課に別れて販売用の屋久島グッズ製作を行った。ものづくり課は、屋久杉キーホルダーの製作と屋久島Tシャツのデザインと製作、パンフレット課は子供たちの実態を伝えるパンフレットと屋久島ドライブガイドを製作した。募金・販売活動は夏休みに実施。観光客に購入してもらうために2組に分かれて高速船発着所で行った。最初は恥ずかしくて声を出せなかったが、毎日6時間立ち続け、その後文化祭等でも販売・募金活動を行い、総額71,700円を集めることができた。

生徒たちは、屋久島Tシャツが売れない事で商売の厳しさを知り、一日中活動する事で心身の疲労を経験した。しかし、多くの人とふれあうことで人の温かさを感じ、自分たちが住む屋久島や縄文杉の人気や偉大さを知り、郷土に対して誇りを持てる、充実した時間となった。

一年間に及ぶ「笑顔」プロジェクトに、生徒は「自分の周りでも笑顔プロジェクトを行っていきたい」「普段の生活も気をつけたい」と感想を述べ、ボランティア活動への意欲を高めることができた。今後の課題もあるが、生徒のボランティア活動に対する意識も高まっているので、このプロジェクトを今後も継続していきたい。



<屋久杉キーホルダー作り>



<販売の様子>



<Tシャツ、ドライブガイド、絵ハガキ>



# 【高校生の部】 更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)

## 農業ボランティア

更級農業高等学校は、長野市の南に位置する篠ノ井にあり、古くから農業・園芸の産地であったが、新しい住宅地が年々増え、高校の周りの環境変化や農業の後継者不足は避けて通ることができず、生徒の中にも農業未体験者が多くみられるようになった。

平成18年度、加工クラブで行った地元農産物を利用した新しい加工品の開発で「あんず饅頭」を製作。その年の地元JA主催の「あんず料理コンクール」で特別賞を受賞したが、生徒たちは原材料であるあんずの栽培される様子を全く知らなかった。そんな時、生徒たちから実際に農家に手伝いに行ってみたい、という声があり、農業の現状を知るとともに、ねこの手も借りたい農家の手伝い、高齢で農作業が進まないお宅の手伝いをする「ねこの手隊」が結成された。

「ねこの手隊」の決まり事として、①ねこの手として農家の手助けをすること②報酬はもらわず、ボランティアであること③登録制とし、依頼内容や日時によって人数を決定すること④農家などで出されたおいしいご飯や漬物などは遠慮なくいただくこと……を決めスタート。ポスターを作り、地元の農協や市の農業公社などに実際に出向きPR活動を行った。

農家からの出動要請は2年間で50回となり、農家の方々とふれあう事で農業の楽しさを知り、生徒たちにとってこの活動は刺激的で魅力的なものとなっている。また、農作業の手伝いだけでなく、可能な限り伝統的作業や農産物の利用・加工方法を教えてもらうようにしており、あんずの収穫では浴衣地を使った伝統的な収穫方法や、地元で伝わるあんずの砂糖漬けなども教わり、貴重な体験をしている。



<あんずの収穫と箱作り>



<作業の合間の昼食>



<農家の方との語らい>

## 【一般の部】 八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)

### まちづくりボランティア

「八雲ジュニアサポーターズクラブ」は平成16年5月に結成された「まちづくりボランティアグループ」で、松江市立八雲中学校を卒業した高校生や大学生など40名ほどで構成されている。月1回の定例会で計画を立て、「八雲青少年育成の会」の支援を受けながら年間を通して継続的に活動を行っている。都合がつく時に都合がつく者が参加し、通常10～20名で活動している。

八雲町には小学校、中学校が各一校ずつあるが高校がないため、中学生までの間に築かれた人間関係や地域との関係が弱くなってしまいがちであった。そんな事から地域に対する思いを持ち続け、活動し、また後輩である中学生の活動をサポートするため立ち上げられた。

月1回の定例会を開き、年度初めに前年の活動を振り返りながら年間の計画を立て、見通しを持って活動ができるようにしている。今年度は中学生とのゴミ拾い、京都への研修旅行、町の夏祭りや文化祭での模擬店参加、町民の集いへの運営協力、サンタクロースの訪問、広報誌の発行などを計画した。その他地元の劇団公演や他団体の手伝い等、青少年ボランティアの依頼の窓口にもなりつつある。また、夏に行う研修旅行では、自分を見つめ直したり、小中学生のサポートの仕方を学んだりしている。

活き活きと活動する若者の姿は、地域でも話題となっている。このような活動の様子は「みつばつじ」(毎月)「CAN」(年2回)という広報誌を発行し、中学生と町内全戸に配布している。

中高生や若者が地域で活躍することで、地域も元気になってきているように感じている。今後も、中学生徒会や地域の方と連携を図りながら、地域活動を展開していきたい。



<中学生とのゴミ拾い>



<中高生と若者のフォーラム>



<フィールドワーク後の振り返り>



<サンタクロースに扮しての訪問>

# 特別賞

## ■ 尾道市立三幸小学校 (広島県)

三幸小学校は尾道の対岸にある向島の西に位置し、開校22年、児童数165名の学校で、いろいろな活動を通して満足感を味わい、主体的に活動する子供の育成を目指し、また異学年児童が関わり合えるような関係づくりを狙いとして、「わくわくボランティア」という活動を児童生徒会本部が計画し、実施している。

児童会役員が全校集会でボランティア活動の呼び掛けを行い、毎回参加者を募り、高学年からはボランティアリーダーを募集。後日リーダー会を開催し、計画・運営・準備・片付けについて話し合う。活動の一週間前には、一人でも多くの児童が参加するよう役員が呼びかけを行う。受付時にプレートを受け取り、首からかけて活動を行い、終了後参加シールを受け取り、自分の名前を書いて「大きくなあれボランティアの木」に貼る。これは活動の様子がわかるとともに成果や喜びを表し、充実感につながっている。毎月活動が行われているが、年間8回以上参加した児童には、児童会から感謝状が贈られる。

終了後にリーダー会が開催され、反省を行い、次の活動につなげている。活動は校内だけでなく、学校周辺の道路や溝も清掃しており、釣り人や地域の人が捨てたゴミがきれいになるまで2年間かかった。

ボランティア活動を通して、友達同士が関わり合い、触れ合う事で、コミュニケーション力が少しずつ高まり、満足感や充実感を味わうことができた。さらにふれあいの心や思いやりの心、望ましい勤労観が育ち、子供の変容が見られるようになった。また、児童会役員やボランティアリーダーが参加者を増やそうとしたことで、熱意が伝わり、毎回90%以上の児童が参加するようになった。



<道路の清掃>



<ボランティアプレート>



<大きくなあれボランティアの木>

## ■ 鳴門市第一中学校 ボランティア部 (徳島県)

### 「幸せのキャッチボール」

第一中学校ボランティア部の校内活動は、校内美化に重点を置き、校外活動はケアハウスでの交流、国道沿いの清掃、マイバック持参運動の呼びかけと袋の作成、お年寄りへのお弁当作りと配膳ボランティア等を行っている。今年は20名の部員で活動している。

部員は、ケアハウスやグループホームへの訪問を通じて、お年寄りにしてあげているだけでなく、自分たち

もお年寄りから多くの優しさをもって勇気づけられているように思い、お年寄りと過ごす時間は温かな心が飛び交い幸せを感じている。

独居老人への配給ボランティアでは、お弁当箱(保温性があるため大きくて重い)の回収時、お年寄りたちが持ちにくそうにして出てくる様子に気づき、何かいい弁当袋がないかとデザインを考え、試行錯誤の末、結ぶ必要がなく、布を広げるとランチョンマットになり、杖を使っている人にも持ちやすいように紐を長くするなどの工夫をしたバッグを考案した。製作に当たっては、余り布を提供してもらい型紙作りから縫製までを行い、たくさんの優しさを包む袋なので「つつむくんバッグ」と名づけ贈呈した。

夏休み等には、ボランティアと一緒に独居老人に配るお弁当作りや、つつむくんバッグを使った配給のお手伝いをする。その際にお年寄りから様々な声をかけてもらえ、頑張ってたよ良かったと感じる。お弁当作りのボランティアの方々とのおふれあいも、学校では味わったことのない安堵感があり、生徒の方から悩みを相談することもあった。お弁当作りで、様々な幸せがキャッチボールされていると感じた。

これらの活動を通して、多くの人に役立っているという実感と同時に、自分に自信が持て、勇気と元気を得たように思う。仲間の大切さも実感した。ボランティア部が中心となってさらに地域や学校にボランティアの輪が広げられるように啓発していこうと思う。



<つつむくんを使っての弁当配達>



<マイバッグ持参運動の呼びかけ>

## ■ 富山県立小杉高等学校...生徒会... (富山県).....

生徒会執行部及びボランティア委員会が中心となり、全校でボランティア活動に取り組んでいる。ボランティア委員会は、生徒会の中の独立機関として、ボランティア経験者及びボランティア活動に興味のある生徒が自主的に参加し、組織している。

活動は、古い体操服や文房具、タオルなどを全校生徒から集め、富山市のガールスカウトを通じてマリ共和国の子供たちへ贈る「地球市民」支援活動で、平成12年度から継続している。輸送費用は募金や学校祭の売上金を寄付し協力している。また、交通安全ボランティアでは、地域の異世代間交流を深める活動として手作りのマスコットを作成し、秋の交通安全期間中にドライバーに配布、安全運転への注意を呼び掛けている。他に地域の保育園児を学校行事に招待したり、保育所や特別養護老人ホーム等でのボランティア演奏や施設行事の補助等も行っている。

さらに、ペットボトルの分別回収を行っているが、この活動を始めたのはたった一人の生徒だった。ボランティア委員の一人が毎日放課後、学校敷地内のゴミ拾いをしてきた。ゴミは分別もされず、どこにでも捨てられていたため、生徒会執行部で話し合い、分別用のゴミ箱を設置し、分別回収を始めた。キャップはポリオワクチン用に「NPO 世界の子供にワクチンを 日本委員会」に寄付、ボトルはリサイクル再生工場に引き取ってもらい、代金は氷見市の子供の心臓移植費として寄付した。

みんなで協力して一つの事をするのが、活動のねらいである。ゴミを汚いまま放置しておくより更に多くのゴミが増える。校内の一般ゴミの量は前年度比-1000kg になった。ゴミとして捨てていた古い体操着が、地球上の自分たちと同じ生徒の役に立つことも実感したと思う。今後も活動を継続し、富山・日本だけでなく地球とその未来について考え行動し続けたい。



＜マリ共和国への体操着を送る＞



＜ペットボトルのリサイクル＞

## ■ 富貴中おやじの会（愛知県）

「荒れた学校を立て直したい」と、平成16年、地域のおやじが立ちあがった。当時の富貴中の様子を校長は「4月、赴任した学校の玄関で出会ったのは、髪を金髪に染め私服を着た新3年生の生徒であった。校内は、階段に何百本もの煙草の焦げ跡、コードがむき出しになりカバーの外れた電灯スイッチ、扉に穴のあいたトイレ……唖然とした。ここは学校ではない」と当時を振り返る。

当時、学校は校内暴力、授業エスケープ、校内喫煙、器物破損などの問題行動が日常化していた。教師の昼夜に及ぶ指導にも拘わらず、正常な学校生活を取り戻せず、そんな様子を見た地域や保護者に「学校の力になりたい」という思いが高まった。この思いが区長や祭り保存会等の地域の人々にも伝わり、地域の学校関係者を中心に「富貴中おやじの会」が発足した。

活動は生徒によって壊されたり、老朽化したりしている学校施設の修繕から始まった。被服室の裁縫機をリフォームし、空き地をテニスコートに変身させた。また時間を意識させるため屋外大時計を組み立て直し、読書タイムの充実を図るため図書室を整備。さらに調理室の整備、掃除道具入れの扉の修繕等、次々と学校環境を整えていった。これらの活動は会員による無償ボランティアであるが、土建業者、大工、サラリーマンなど様々な職種の会員の知恵と技能を寄せ集めての活動である。

教師の根気強い指導、生徒会を中心としたボランティア活動なども相乗効果となり、生徒は年々落ち着きを取り戻していった。すると会員から「生徒と共に活動したい」という声があがり、平成19年度、生徒と共に樹木の剪定を行った。また平成20年度には運動会におやじの会が参加、学校中が声援で包まれた。

生徒・教師・地域がアイデアを出し合い一体となれば、生徒のさらなる健全育成につながる活動が期待できる。冒頭に紹介した金髪の生徒は、現在19歳になり、おやじの会会長の事業所で働いている。地域のおやじによる環境整備ボランティアは、生徒たちの心を着実に変化させている。



<テニスコート整備>



<おやじの会と生徒による剪定作業>

## ■ 高知市朝倉里山を造る会(高知県)

高知県は、温暖な気候と緑あふれる山々、自然豊かな環境に恵まれている。朝倉中学校では、この素晴らしい自然環境を子供たちに気づかせ、未来に引き継いでいく力を身につけさせなければ、という願いから、中学校の裏山に着目。子供たちが10年後、20年後に自分の子供や孫たちと散歩ができる自然豊かな「里山づくり」を目指し、5年前から地域と生徒の協力で、うっそうとした裏山を里山に変える活動が始まった。

活動は、朝倉まちづくりの会、子供を守り育てる会、青少年育成協議会、民生委員、NPO等環境教育に関係する方々と意見を交わしながら進めた。それにより「里山づくり」の目的を、①小鳥や昆虫が集まる環境づくり②森林環境を考える場③生徒、保護者、地域の方が共同で作業できる場④朝倉中学校を地域の学校として位置づける場、とした。ボランティアを広く呼びかけ、学校教育の一環として卒業を控えた3年生一人一人が植樹を行うことを決め、初年度は土日を利用し、全5回の作業を終えた。参加者は地域のボランティア124名、生徒140名、5年間での参加者はボランティア324名、生徒720名に上る。

5年間にわたる作業で「里山づくり」は修了し、今後はこの「里山」を大切にするため、毎年草刈り等の整地を行う必要がある。今後も保護者と生徒、そして地域ボランティアの協力のもとで「郷土を愛する心」をしっかりと育てたい。また、山にはこれまでに640本を越える草木が植えられた。卒業生の木はほとんどが、すくすくと成長している。卒業した子供たちもこの朝倉地区でしっかりと根をはって生活をしてもらいたいと願っている。



<裏山>



<植樹の様子>



<間伐材の搬入・設置>

# SYDボランティア奨励賞 実施要項

財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設置しました。

主 催：SYD(財団法人修養団)

後 援：文部科学省、社団法人青少年育成国民会議、社団法人中央青少年団体連絡協議会、財団法人日本レクリエーション協会、社団法人日本青年奉仕協会、社団法人日本キャンプ協会

## 1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

## 2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

## 3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

## 4. 選考方法

学識経験者等9名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

## 5. 表彰

**文部科学大臣賞** 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ2名招待)

**優秀賞** 4点(小学生、中学生、高校生、大学生・一般の部)

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

**特別賞** 数点(小学生、中学生、高校生、大学生・一般の部)

クリスタルトロフィー(表彰状)、記念品

## 6. 贈呈式

期日:平成21年2月15日(平成20年度)

会場:SYDホール

## 7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

## 8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

## 9. 締め切り

平成20年12月20日(平成20年度)

## 10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2

TEL:03-3405-5441 FAX:03-3405-5424

E-mail:info@syd.or.jp <http://www.syd.or.jp/>

SYDボランティア奨励賞 係

### 選考委員

青柳 修治(全日本中学校長会事務局長)	明石 要一(千葉大学教授)
大野 曜([財]日本女性学習財団理事長)	仲野 好重(大手前大学教授)
長沼 豊(学習院大学准教授)	山田 一功(日本PTA協議会相談役)
國分 正明([財]修養団理事長)	山崎 一紀([財]修養団専務理事)
青木 富造([財]修養団青年部長)	

# 過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

## 第1回(平成18年度)

### 文部科学大臣賞

- 京都市立京都御池中学校(京都府)

### 優秀賞

- 【小学生の部】 鏡石町立第一小学校(福島県)
- 【中学生の部】 庄原市立東城中学校(広島県)
- 【高校生の部】 該当なし
- 【一般の部】 合同ボランティアネットワーク(神奈川県)

### 特別賞

- 国崎翠・吉居夏奈(北海道)
- 美幌町青少年育成協議会(北海道)
- 喜多方市立山都第一小学校(福島県)
- 熱海市立小嵐中学校(静岡県)
- 加藤ひとみ(岐阜県)
- 伊江村立伊江中学校(沖縄県)

## 第2回(平成19年度)

### 文部科学大臣賞

- 香川県立多度津水産高等学校(香川県)

### 優秀賞

- 【小学生の部】 該当なし
- 【中学生の部】 木更津市立鎌足中学校(千葉県)
- 【高校生の部】 学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
- 【一般の部】 該当なし

### 特別賞

- 天草市立城河原小学校(熊本県)
- 志布志市立通山小学校(鹿児島県)
- 東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都)
- 多治見市立多治見中学校(岐阜県)
- 神奈川県立相原高等学校「相っこプロジェクト」(神奈川県)
- 熊本県立盲学校(熊本県)
- 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府)
- ブラジルを美しくする会(ブラジル)



## SYD『幸せの種まき運動』とは

－みんなでまこう！幸せの種－をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

### 《三つの‘幸せの種’》

- ☆こんにちは！という‘ふれあいの種’
- ☆どうぞ！という‘思いやりの種’
- ☆ありがとう！という‘よろこびの種’